

刈谷市歴史博物館 山下智也

知多半島・西三河における海運の歴史学的研究

調査研究期間：2025年10月1日（水）～2026年3月31日（火）



【調査研究の内容・目的】

- 当館蔵「江戸より長崎・五島まで海路図」の類本調査や、知多半島・西三河地域の海上・河川交通、流通に関する資料を調査し、成果を展示・公開することで、当該地域の海運に関する興味関心を高めることを目的とする。
- 海路図諸本の比較検討を通じ、制作目的や江戸時代の海路や港などについて明らかにすることを期待して実施する。また、写本系統や製作者の意図などを明らかにすることで、当該資料の海上交通史における史料価値を高め、詳細な解説によって日本の豊かな海上文化に触れることができる。
- 館蔵海路図に描かれた内容や成立過程について詳細を知ることができる。令和8年度秋季開催予定企画展に同絵図を出品する際、観覧者により深く解説することが可能となる。あわせて戦国時代の古文書から東海の海上・河川交通、流通の調査を行うことで、地域での水運の歴史的展開を明らかに

1. 調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】

■山下智也（刈谷市歴史博物館 学芸員）

【調査研究分担者】

■無し

【実施計画】

■1カ年計画1年目

【主な調査研究対象など】

■「江戸より長崎まで道中図巻」（野田市立興風図書館蔵）

■「自江戸至長崎東海道山陽道四国九州街道ノ図」（豊橋市美術博物館蔵）

■「江戸ヨリ長崎迄(絵巻物)」（臼杵市教育委員会蔵）



各地の博物館等に収蔵される街道図・海路図を閲覧・撮影し、館蔵海路図や各類本との内容比較を行った。卷子や大きな絵図が中心であり、それらを開いて実見することで分割された画像ではわからないところ、細かな表現や判別できなかった文字を確認することができた。館蔵海路図と内容の近しい印象のあった臼杵市教育委員会蔵の絵図が同じ写本系統であることを確認するとともに、制作年代の違いや写されていく段階で追記されているものなどが明らかとなった。館蔵海路図は江戸―大坂について東海道と海路を併記することが特徴で、大坂以西は海路を描くことが特徴だが、道中図と海路図を組み合わせたハイブリットな絵図として二系統の内容を引き継ぐ資料として位置付けられると結論付けた。そして街道図と海路図の関係、海路図の写本系統、描き方の差異、海路図の制作意図などが明らかとなった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



データベース上の縮小写真だけでは確認できない細かな潮流の描き分けなどについて、原本を閲覧することで確認した。また、カット割り写真だけでは認識できなかったより広域な場面を原本確認、より広い場面での写真記録を行うことで、大きな画面を活かして見ることが可能になり長く線で示される海路や地形の描写の差異を分析した。制作年代が新しくなるにつれ、絵図に示される海流の早い瀬などの危険個所などの表記や注記がなくなって地図的な実用性を失ってゆき、形態も長大な卷子から折本や屏風装になるなど鑑賞用としての美術的要素を強めていくことがわかった。それが版本として印刷されるようになり、次第に小型化して地図的要素が復活していき、道中案内として刊行されるようになっていくという変遷をたどるという変遷を想定した。



データベース上の縮小写真だけでは確認できない細かな潮流の描き分けなどについて、原本を閲覧することで確認した。また、カット割り写真だけでは認識できなかったより広域な場面を原本確認、より広い場面での写真記録を行うことで、大きな画面を活かして見ることが可能になり長く線で示される海路や地形の描写の差異を分析した。制作年代が新しくなるにつれ、絵図に示される海流の早い瀬などの危険個所などの表記や注記がなくなって地図的な実用性を失ってゆき、形態も長大な卷子から折本や屏風装になるなど鑑賞用としての美術的要素を強めていくことがわかった。それが版本として印刷されるようになり、次第に小型化して地図的要素が復活していき、道中案内として刊行されるようになっていくという変遷をたどるという過程を想定した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

- 博物館活動の形態：海を行き交う人・モノをテーマにした企画展
- 実施時期：2026年10月3日～11月15日
- 実施場所：刈谷市歴史博物館企画展示室

【実施内容】

- 東海の交通・流通史の中で河海を主たるテーマとした展覧会を開催する。
- 中世陶磁の舟運による広域流通、室町・戦国期の舟運を利用した人・モノの往来、戦国大名による流通統制、近世海運と知多半島・西三河の関係について紹介する。
- 「海の学び」に繋がる関連イベントとして展示内容に関連した講演会や工作体験などを実施する。

【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

- 東京国立博物館、国立公文書館、京都国立博物館、和歌山県立博物館、慶應義塾大学三田メディアセンター、東京大学史料編纂所、名古屋市蓬左文庫、名古屋市博物館、豊橋市美術博物館から展覧会への資料の出品。
- ふるさとガイドボランティアに委託している史跡巡りを企画展期間中に衣ヶ浦に関係するコースで実施し、ガイド内容に調査成果を加える。
- 展覧会関連イベントの講演会を、中世陶磁器について専門の山本智子氏（瀬戸市埋蔵文化財センター）に、松平・徳川氏および江戸幕府の海上軍事について専門の小川雄氏（日本大学）に依頼する。

【特に学校教育との連携について】

- 市内社会科教員の自主研究会を企画展開催期間中に当館を会場として実施し、市内社会科教員に向けて担当学芸員により展示内容の案内・解説および当館指導主事による指導案の提案と意見交換を行い、衣ヶ浦に関することなど刈谷市と海の繋がりについて学校教育の現場で活かすことのできる教材やアイデアを提供する。

【事業全体のまとめ】

本事業の調査研究を基に、館蔵海路図と同一系統にある写本と大元の地図情報を持つ絵図の存在を明らかにした。広く街道図・海路図を見た場合に館蔵海路図が、街道図形式に海路情報を組み込んだ街道図の派生形であると位置づけ、その成果を『刈谷市歴史博物館研究紀要』第6号に掲載した。掲載各絵図の内容から東海地域の海辺の歴史的な特徴とし中・小規模の湊が多く存在し、陸路、特に東海道との連絡において重要な役割を持つことが確認された。

今後は、常設展や企画展を通して伊勢湾・衣ヶ浦の歴史的役割を紹介し、土砂の堆積で河川となり現在では希薄となってしまっている刈谷の「海への意識」醸成に努めたい。その第一歩として令和8年度秋季に企画展「河海を往く」を開催予定である。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 豊橋市美術博物館	資料の閲覧・撮影
2. 京都国立博物館	資料の閲覧・撮影
3. 和歌山県立博物館	資料の閲覧・撮影
4. 臼杵市教育委員会	資料の閲覧・撮影
5. 名古屋市蓬左文庫	資料の閲覧
6. 九州大学附属図書館	資料の閲覧・撮影
7. 九州大学記録資料館	資料の閲覧・撮影
8. 福岡市博物館	資料の閲覧・撮影
9. 野田市立興風図書館	資料の閲覧・撮影
10. 東京国立博物館	資料の閲覧・撮影
11. 国立公文書館	資料の閲覧・撮影
12. 国立国会図書館	資料の閲覧
13. 名古屋市博物館	資料の閲覧・撮影
14. 愛知大学総合郷土研究所	資料の閲覧・撮影
15. 慶應義塾大学三田メディアセンター	資料の閲覧・撮影
16. 東京大学史料編纂所	資料の閲覧・撮影
17. 九州国立博物館	資料画像の提供

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 『刈谷市歴史博物館研究紀要』第6号	研究ノート「海路図に関する一考察―館蔵海路図を中心に―」、令和8年3月31日
2.	
3.	
4.	

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。